日本大学薬学部校友会

桜薬会会報

No. 74

薬学部 833B 実習室（計数調剤）

May. 2021

目　次

第 33 回桜薬祭のご案内　母校を訪ねる日 …… 2
学部長就任のご挨拶 …… 3
人物往来　藤原良雄 …… 4
日本大学校友会正会員募集中 …… 6
人物往来　今給黎明彦 …… 7
生涯教育講座のご案内 …… 9
研究室だより …… 10
地区支部・職域支部だより …… 14
日本大学ニュース …… 15
薬学部ニュース …… 16
令和 4 年度日本大学薬学部入学者選抜期日及び科目等 …… 18
会合予告・会務報告 …… 20
会費納入報告・物故者名簿 …… 21
令和 3 年度　通常総会のお知らせ …… 22

★　表紙・写真　撮影者：薬学部　写真部

第 33 回桜薬祭のご案内　母校を訪ねる日

第 33 回桜薬祭（薬学部学園祭）が来たる 10 月 30 日（土）・10 月 31 日（日）の両日、薬学部校舎で開催されます。

薬学部校友会では、10 月 30 日（土）を校友の「**母校を訪ねる日**」と定めて当日参加校友（工学部薬学科・理工学部薬学科・薬学部卒業生）に昼食券（500 円）を進呈しております。

当日は学生会員の研究発表も行われております。校友の皆様お誘い合わせの上ご来校ください。多数のご参加をお待ちしております。

学部長就任のご挨拶

学部長　鳥山 正晴

この度、2期6年間薬学部長を務められました本橋 重康 先生の後任として薬学部長を拝命致しました30期卒業生（薬品製造学）の鳥山です。私は日本大学理工学部薬学科卒業後、大学院理工学研究科博士前期課程（工業化学専攻）を修了した後、理工学部一般教育化学教室副手を経て、平成2年に薬学部化学研究室（徳竹伯夫教授）に採用されました。以来、副手、助手、専任講師、助教授、准教授、教授の職を日本大学において35年間に亘り務めさせて頂いております。また、この期間中は薬学部校友会の役員も務めさせて頂き、会員の皆様方から多大なるご指導と御教示を頂きましたことを深く感謝しております。

日本大学並びに薬学部教職員、そして校友会会員の皆様方の今までのご恩に報いると共に、本学部の学生のために、この3年間の任期を誠心誠意努める所存です。

さて、ここ数年で本学部を取りまく環境は、大きな変遷を迎えていると言っても過言ではありません。近年、受験生の薬学部人気に陰りが見え始めております。これは薬剤師の需給予想に基づく将来像において薬剤師総数は、今後、現在の水準以上に薬剤師養成が必要になる状況は考えにくいとの予測があることも一因と思われます。私立薬科大学志願者数は、6年連続で減少傾向にあり、これは2014年度と比較すると約2／3に減少しており、受験生の獲得競争が激化しております。新設大学では定員割れを起こしている大学もあり、本学部の志願者数も近年大幅に減少しております。このような状況から、入学者の基礎学力低下が懸念されます。入学時の学力は、その後の最低修業年限での卒業者数や国試合格率とも密接に関連しており、国試合格率の低下は入学志願者数の減少に繋がります。この負のスパイラルに陥らない為にも初年次教育の充実と基礎学力の強化が重要課題の一つであると考えております。

本学部は、「人類の保健、医療及び福祉に貢献する新しい薬学を創造する」という理念に基づき、医療人としての高い倫理観と専門性を有し、人の健康と医療の向上に貢献できると共に、「日本大学教育憲章」に則り「自主創造」の気風を身に付けた「日本大学マインド」を有する薬剤師を養成することを目指しています。総合大学である日本大学のスケールメリットを活かし、医学部、歯学部、松戸歯学部並びに日本大学病院、医学部附属板橋病院のご理解とご協力を得て、更なる連携強化を図り、より高度化・専門化する医療に対応できる薬剤師を育成して参ります。

新型コロナウイルス感染症拡大の収束は、未だ予断を許さない状況でありますが、多くの人々は世界中で医療従事者の方々が高い使命感と強い責任感を持ち、人の命と健康を守るために奮闘している様子を目にしていることと思います。本学部学生は自分自身が目指した将来の職業の大切さや重要性、社会からの期待を認識し、数年後には医療人の一員となる重責を自覚しており、高い志を持っていると信じております。本学部では、学生の健康と安全並びに学修を第一義として、全力で学生をサポートして参ります。

末筆ではございますが、日頃より薬学部校友会、そして薬学部校友会会員の皆様方には本学部学生に対し、経済的なご支援並びに学生生活や就職面に対する支援など多面的なお力添えを頂いており、この紙面をお借り致しまして改めて深く御礼申し上げる次第です。

薬学部校友会の益々のご発展と薬学部校友会会員の皆様方のご健勝を祈念致しますと共に、今後とも本学部へのご支援、ご協力を賜りますよう何卒宜しくお願い申し上げます。

【略 歴】

昭和37年7月13日生まれ、昭和56年 日本大学豊山高等学校卒、昭和60年 日本大学理工学部薬学科卒、昭和62年 日本大学大学院理工学研究科博士前期課程修了、平成9年 博士（薬学）（東京大学）、平成11～12年 マサチューセッツ工科大学博士研究員、平成15年 日本大学専任講師、平成18年 日本大学助教授、平成19年 日本大学准教授、平成28年 日本大学教授、平成27～令和2年日本大学薬学部校友会副会長（財務委員会）

人 物 往 来

16 期（理工学部薬学科：1971 年卒）藤原　良雄

はじめまして、1971 年卒業の藤原良雄と申します。

2020 年、新型コロナウイルスの集団感染が起きたクルーズ船「ダイアモンド・プリンセス号」から 1 年が過ぎ、世界中がパンデミックという味噌有の危機に直面しました。未だ感染拡大が止まらず先の見えない状況です。

桜薬会会員の皆様におかれましても、それぞれの立場において大変ご苦労されているかと存じます。一日も早い収束を願うばかりです。

この度、原稿依頼を頂きこの機会に七十路を過ぎ改めて自分の歩みを振り返ることが出来ました。

◆大学入学まで

幼い頃は、時折夜中に往診をしてもらうような病弱な子供で、小学生の時には出席日数が足りないのではと両親はとても心配していました。それから中学、高校へと成長と共に体力もつき健康的になって来たかと思います。進路についてはあまり深く考えていませんでしたが、高校生になって理系を選択して父親と同じ道を選び薬学を受験しました。

◆大学時代

昭和 42 年 4 月、日本大学講堂にて全学部合同の入学式が行われました。母と共に両国駅に着くと学生服の新入生が列をなし、日大講堂に吸い込まれそうなその多さに驚きました。式典は良く覚えていませんが、その後に新入生歓迎で歌手の奥村チヨが「ごめんね…ジロ」を歌い終えて無事に入学式が終わりました。

千葉の田舎者が大都会新宿駅経由で京王線下高井戸にある文理学部で教養課程が始まりました。学部で驚いた事は有名なスポーツ選手が体育の教官で、水泳で次々と世界記録を打ち立てたフジヤマのトビウオの異名を持つ古橋廣之進先生、そして担任には昭和 39 年オリンピック東京大会の体操で金メダルを獲得した遠藤幸雄先生です。未だオリンピックが終わって 3 年、現役バリバリの怖い教官であったと記憶しています。

日本大学講堂：巨大ドーム式の洋風建築の建物　昭和 58 年老朽化のため取り壊し

次の体育の授業は、文理学部の体育館でした。体育館の壁には、遠藤幸雄先生のオリンピックの時の体操演技の写真が大きく飾られ、床に競技用体操用具、鉄棒、平行棒、鞍馬吊り輪が並び自由に使って運動するよう言われましたが、ただぶら下がる位で何も出来ず、その高さに驚き眺めているだけでした。

そして、もう一人の有名人は文理学部 1 年生の木原光知子さんです。中学時代から田中聡子のあとの日本水泳界を背負う最大のホープと騒がれ、昭和 39 年オリンピック東京大会に出場「ミミ」の愛称で一躍アイドル選手となり、良く学生食堂にジャージ姿で他の女子学生に囲まれその輪の中で頭一つ背が高く、日焼けしとても輝いているように見えました。それは今の水泳界のホープ池江璃花子選手と同じです。

昭和 43 年 3 月教養課程も終わり、御茶ノ水校舎に移って間もなく、日大当局の裏口入学斡旋と使途不明金の発覚を契機に小さな火の手が経済学部から上がりました。学生の怒りが爆発し日本大学全学共闘会議（日大全共闘）が結成され、各学部がストに突入して理工学部も 7 月にスト突入しました。
そして 9 月、日大両国講堂会場で入りきれないほどの学生が集結して「大衆団交」が行われましたが、結局その後、学部に機動隊突入によって闘争は沈静化し、昭和 44 年春には紛争は収束方向へ徐々にバリケードが解除され授業が再開されました。バリケード封鎖での短い二年生を終え、何か急ピッチで進級したかと思います。卒論は薬化学研究室　立山先生にお世話になり卒論研究も無事に終了して就職活

動に入り薬化学の先輩が役員をされている大阪の大手ドラッグチェーンへの就職の話が有りました。悩んだ末、薬化学研究室の仲間３人で就職することになりました。

◆社会人になって

昭和 46 年 4 月大阪にて、マンションの一室で 3 人の共同生活が始まりました。研修期間も終わりそれぞれ別々に配属され、仕事にも慣れた頃、二度三度と腹痛に見舞われ、遂に通勤途中で途中下車する程の激痛が生じ、病院で検査を受けたところ尿管結石と判明し入院しました。今では体外衝撃波粉砕術、他の治療方法が有りますが、当時は水分を取って自然に出るのを待つだけでした。その内に結晶のような物が出て退院となりました。この先、気の弱さと不安が募り勤めて僅かでしたが退職して千葉に戻ることにしました。

次の就職に向けて、研究室の立山先生にご相談致しました。先生から東京第１病院（現在：国立国際医療研究センター病院）薬剤部長中野先生をご紹介頂きお目にかかりました。中野先生から公務員とはどういうものか経験してみてからでも、そこで国立千葉病院を紹介して頂きました。公務員として勤務して５、６年位経って転勤の話が有り、転勤先が関東甲信越で転勤を考えるとこの先大変難しいと思いました。時同じくして、日本で初めて千葉県に単独型の高度救命救急センターが新設されるとのお話を頂き、昭和 54 年に千葉県救急医療センター準備室に移る事に致しました。昭和 55 年 4 月に開設し、365 日 24 時間体制で重症患者の救命救急に携わり、目の前の患者の苦しみや、その家族の悲しみ、心の痛みに対して、これほど「生と死」について直面した事は有りませんでした。

平成 7 年 1 月の阪神淡路大震災、平成 16 年 10 月の新潟中越地震に医療支援に参加して、診療所の開設、避難所の巡回、そして新潟中越地震では、地元診療所の職員の方々が不眠不休で仕事をされ、それに代わって診療に携わりました。両方震災を経験して、一番苦しんでいるのは避難されている方々なのに、逆に私達に労いの言葉を掛けられ身に余る経験を致しました。そして、平成 21 年 3 月定年退職致しました。

◆職場以外の活動

＝千葉県病院薬剤師会＝

平成 3 年 4 期先輩の順天堂大学浦安病院薬剤部長の小清水敏昌先生が病院薬剤師会会長をされていた時に役員のお話を頂き DI 委員、総務委員長を務め、平成 19 年 3 月迄役員を務めました。小清水先生から、多くの教えを受け、いつも背中を押して頂きました。お会いしなければ、井の中の蛙で終わっていたかと思います。多くの病院の先生方、行政職の方と知り合うことが出来、それは病院の業務にも大変役立ちました。

＝桜薬会千葉県支部＝

昭和 63 年 2 月千葉県内の病院、調剤薬局、行政に勤務する同窓生により「桜葉会」（２期木下正美会長）が設立されました。昭和 63 年 4 月理工学部薬学科から学部に昇格し千葉県習志野校舎に移転したのを機に、千葉県支部に吸収され、平成元年 2 月千葉県支部が設立、支部長に 1 期新村宗敏先生の元に活動が始まりました。それから支部長は、４期市原先生、６期渋江先生、８期青木先生へと代わり、平成 29 年に青木先生から支部長の依頼が有り引き継ぐことになりました。新幹事の選出については、千葉県病院薬剤会で同窓生との交友が有りましたので、無理なお願いをしたところ心良くお引き受け頂き感謝いたします。

・病院関係：22 期福田恵子先生、25 期大野幸夫先生、30 期神谷英里先生、50 期内田朋毅先生
・大学関係：28 期小林弘子先生　・行政関係：32 期遠藤幸男先生　・薬局関係：33 期澤田康裕先生
・相談役：9 期渡辺和子先生

令和元年 3 月新執行部で総会を開催致しました。次回の開催は、コロナ禍の中で先が見えない状況ですが、支部総会が開催時には、何卒応援をして頂きご参加の程お願い致します。

◆定年そして第二へのスタート

平成 21 年 4 月医薬品卸の管理薬剤師として再就職しました。今迄、病院一筋で得意先の立場から逆の立場となり得意先を見ることができ、優越な立場で無理難題を突きつける得意先も有り、卸の方々のご苦労が良く分かり両面を見て大変勉強になりました。勤務契約継続も可能でしたが契約通り平成 25

年に退職しました。
　平成27年、千葉県病院薬剤師会会長から、平成28年8月第46回関東ブロック学術大会（関東1都9県）千葉県病院薬剤師会が担当するので、是非手伝って欲しいとのお話を頂きました。以前平成17年第35回学術大会の運営に携わっていたからと思います。事務局として運営に参加して大会が盛会に終わることが出来ました。翌年、平成29年4月役目を終えました。

◆最後に

　一昔前までは人生50年と言われていたのが、今はまさに人生100年の時代です。
　七十路を超え、すべての出会いが新鮮で楽しみむようになりました。これから、自分が楽しいと思える範囲で活動して行きたいと思います。
　救急医療センター・センター長からサミュエル・ウルマン（ドイツ人1840年―1924年）の「ＹＯＵＴＨ（青春）」の詩を教えて頂きました。その時は、現役の50歳頃かと思いますが、まだまだ若く老いる事など感じる事は有りませんでした。
　今、この歳になり再び読み返し常に気持ちはこうでありたいと思いその一部を紹介します。
　“青春とは人生の一時期のことではなく心のあり方のことだ
　　若くあるためには、創造力、強い意志、情熱、勇気が必要であり
　　年を重ねただけで人は老いない。理想（希望）のある限り若く、失望とともに老い朽ちる
　　美しさや喜び・勇気・力などを感じ取ることが出来る限り、その人は若いのだ“

　振り返りますと、多くの方々に支えられ、そして多くの人と知り合えたことが大過なく今日があると思います。校友会皆様の今後のますますのご発展をお祈り致します。

日本大学校友会正会員募集中

　皆様は日本大学薬学部校友会が、日本大学校友会の下部組織として活動していることはすでにご存じのことと思います。薬学部校友会は卒業生を正会員に、在校生を学生会員として構成しております。日本大学校友会では卒業生全員に、毎年２月頃、校友会誌「KIZUNA（絆）」を送付し、別途登録して頂いた校友を正会員（会費10,000円）として正会員会誌「桜縁」（年２回発行）をお届けしております。正会員会費の一部は薬学部校友会へ納入した翌年に還付されます。還付金は還付当年度の薬学部校友会年会費としております。ぜひ正会員登録をして頂きたくお願い致します。希望者は事務局までお知らせ下さい。

工学部薬学科・理工学部薬学科卒業生にお願い：

　登録・会費納入に際して郵便振替用紙記入の時、「所属する支部・部会」欄に必ず「薬学部校友会」と記入して下さい。無記入ですと本会に還付されませんので、薬学部校友会会費に振り替えることが出来ません。ご注意下さい。

人 物 往 来

31 期（理工学部薬学科：1986 年卒）　今給黎　明彦

第二作目となる電子書籍の原稿を書き終えた頃、同期の加藤君（環境衛生学）から Line にメールがあった。見ると、会報の人物往来の執筆をお願いしたいとの内容である。そもそも電子書籍を自費出版しようと思ったのは、33 年間勤めたエーザイの後輩たちへの、懺悔と激励のためだった。心もお金にも貧しかった大学時代、同級生らには多大な迷惑をかけてきた。そう考えると、いい大人になった今、この紙面をかりて懺悔することもできる。そう思い、執筆を受けさせてもらうことにした。頂いたテーマは人物往来である。広辞苑で調べると、その意味のひとつに、感情や考えが心中に現れたり消えたりすることと書かれてある。迷惑をかけてきた大学の同級生たちを思い出しながら、現在までの自分の生き様を振り返ってみたい。

【サーフィンと共に歩んだ大学時代】

日本大学理工学部の正門をくぐると、そこは桜並木だった。これからはじまる青春に、満開の桜を見ながら万感の思いだったことを覚えている。ただ正直な気持ちは、薬学の道を志すというより、サーフィンを究めるとの思いが強かったかもしれない。結局は、究めるまでは至らなかったが、大学の４年間は常にサーフィンと共に歩んできた。いつも一緒に行動してきたのは、斎藤君、西垣君、山岡君だった。日頃は、湘南や千葉をベースに活動していたが、夏と春の試験が終わると決まって、合宿と称してサーフトリップに出かけた。仙台、愛知、四国、九州、伊豆諸島など、西垣君か山岡君のどちらかの車で、有名サーフスポットを巡り青春を満喫した。とくに山岡君は、鉄人山岡と言われるぐらい長距離ドライブに強く、ひとりで 500Km 以上を軽く運転していた。そのお陰で、山岡君には怒られながらも、いつも助手席で爆睡することができた。また旅先の宿泊は、いつも行き当たりばったりで、しかも日没まで海にいたので、サーフスポット近くの素泊まり宿がお決まりだった。もちろん、予約なしの飛び込みである。サーファー憧れの聖地である宮崎に行った時のこと。日が暮れてからローカルの素泊まり宿を見つけられたのはよかったが、玄関をあけると目の前に大きな仏壇があり、薄暗い中、皆で「やべー」と言いながら泊まったことが懐かしい。そして、それぞれの郷里の実家にも泊まらせてもらった。その都度、お袋さんたちには、たらふくご飯を食べさせてもらった。なかでも、山形の斎藤君のお袋さんには、自分が痩せているからなのか、なにか怒られているような山形弁でまくし立てられ、結局はカレーを大皿で２杯食べさせられた。足が不自由にも関わらず、名所の山寺まで案内をしてもらった。その斎藤君も、なぜか、山形市議会議員になり、西垣君も山岡君も保険薬局の経営者として頑張っている。

また麻雀もよくやった。当時、お茶の水の校舎を下ると雀荘があった。単位を取りに、久しぶりに学校に行ったある日のこと。坂道を歩いていると、雀荘に向かう悪友たちに出会い、そのまま拉致されて雀荘に直行したこともあった。小林君、奥田君、斎藤君が常連メンバーだった。そして、たまにしか学校に来ない穴沢君が来ると、決まって雀荘行きだったような気がする。その穴沢君も静岡で、複数の保険薬局を展開する立派な経営者になっている。人生はつくづくわからない。また奥田君は実家を継ぎ、小林君も、頭髪以外はすこぶる元気のようだ。

そんな学生生活だったので、とくに同じ実験班の方には大変な迷惑をかけた。自分がやると実験結果が思わしくないので、それを理由に、同じ班の井上さんにすべてを押し付け、実験途中に雀荘に行く不届き者だった。また試験前になると、最前線で授業を受けている人のノートを自分でコピーするのではなく新井さんや伊藤さん、菊池さんなどにしてもらっていた。いま考えると、そのお陰で、今の自分があると言っても過言ではない。

そして学生時代は、サウナや引越しなど、アルバイトにも精を出した。４年生になると、千葉医療センターの薬剤部長になっている大塚君に、新橋の薬局を紹介してもらった。そこで働いていたところ、営業に来ていた塩野義製薬の人から就職はどうするのかと尋ねられた。逆に、どこがいいかと質問したら、「エーザイがいい」と言われた。まったく就職先を考えていなかったので、単純に、そこでエーザイがインプットされた。しかし、香粧品研究室の佐藤教授にエーザイを受けたいと相談したところ、「君のような人は受からないよ」と言われてしまった。それは当然かなと思ったが、当時はメーカーからの

募集枠があり、たまたまエーザイから２名の採用枠があった。強運だったのは、自分以外に学内からの応募者がいなかったことだった。そして大学４年生の10月、真っ黒に日焼けした顔に、紫外線で脱色された茶髪の姿で、エーザイの人事部長と役員の面接を受けた。その面接会場で、「君は、エーザイでどうなりたいか」と聞かれ、「クスリのプロになる」と声高らかに答えた。あの頃としては、出来すぎの回答だった。

【医療人としての自覚を教わったエーザイ時代】

こんな生活・性格だったので、エーザイでのMR時代は辛い日々だった。とくに駆け出しの頃は、上司や先輩、担当している医師から毎日のように叱られた。いまでも鮮明に覚えていることは、北里大学出身の循環器の先生から激怒され、医局で涙を流し土下座して謝ったことである。先生からお願いされていた救命薬のサンプルを、期日までに持参しなかったのである。その時に、「医療の主役は患者さん」であり、「医療は365日」であることを厳しく教えられた。その頃は、何度も会社を辞めようと思った。ただ、その都度、同じような境遇にあった同期の他社メーカーMRらと傷をなめあい、癒しでもあったサーフィンによって思い止まってきた。そうしている内に、MRでの17年間が過ぎ去った。なかでも、大学病院をメインで担当できたことは、医療人の世界をよく知ることになり、自信を深めることにも繋がった。夜、大学病院の霊安室前の廊下を歩いていると度々、ご家族の泣き声を聞くことがあった。その都度、医薬品の尊厳性の意味を噛みしめてきた。

エーザイでの転機は、約10年ごとに３回あった。幹部試験と病気、転職である。幹部試験は、エーザイの登竜門と呼ばれ、業績評価、業務レポート、知識確認試験、論文記述試験、役員面接の５項目で合否が決定された。初回は、試験を完全に舐めており、役員面接の前に撃沈した。業績には自信があったので意気消沈していたが、肝心の論文記述試験が最低評価だったと支店長から聞かされた。そこから１年間、毎朝３時過ぎに起き、ピーター・ドラッカーらの本を読み漁り、医療人として、また経営職としての自己規定を論文にまとめる勉強を始めた。その時の大きな決断は、合格するために一番好きなことを犠牲にすること、すなわちサーフィンをやめることだった。２回目の転機は、病気だった。MRを統括していた頃、夜寝ているときに全身痙攣で目が覚め、その後に気を失ったのである。気がついたら救急隊員が目の前にいた。翌日、病院でMRIを撮影し、そこで手渡された画像をこっそり見た瞬間、「これはやばい」と思った。案の定、受診していた神経内科から直ちに脳神経外科に回された。脳にできた腫瘍は、典型的な円形ではなく、長く平べったい形に嚢胞を伴った奇妙な形をしていた。そこで言われた一言が、「悪性の可能性がありますね」だった。脳腫瘍で亡くなった医師の闘病記を読んでいたので、その一言で、人生が終わったと思った。そして手術を受けた。しかし、ここでも強運だった。ICUで、麻酔から目が覚めると、枕もとで「良性でしたよ！」と担当医から告げられたのである。「まだ生きられる」と、天に感謝した。術後の経過は良かったが、術前に静注された「アレビアチン」の漏出痕が５年ほど腕に残った。ただ、そのお陰で、漏出痕をみるたびに患者さんの気持ちに立ち戻り、医療人としての自覚を持つことができた。

【薬剤師としての新たなスタート】

エーザイでの後半16年間は、プロダクトマネジャーとその統括の業務に従事した。プロダクトマネジャーとは、いわば製品の社長であり、社内外の広告塔でもある。最新情報を入手するため、国内はもとより、国際学会にも毎年出かけ、学会オピニオンリーダーとの交流も深めた。手がけた製品は、「グラケー」「アクトネル」「リリカ」「マクサルト」「フィコンパ」「ホストイン」「グーフィス」など、多製品に渡った。16年間、がむしゃらに走り続けてきたが、ふと気がつくと55歳になっていた。そして、「エーザイでやり残したことはない」と思っていた矢先、転機は訪れた。早期退職の募集である。前々から、人様の役に立つことを実感できる仕事をしたいと考えていた。悩みに悩んだ末、これから「本物のクスリのプロになる」ことを目指し、一兵卒の薬剤師、また薬剤師のトレーナーになることを決意した。これまで築いた知識スキルと人脈は、日医工での１年間のGEの学びを含め、一般社団法人ソーシャルユニバーシティ薬剤師生涯学習センターで活かすことにした。そして今、トレーナーの仕事では、研修認定薬剤師の資格継続研修に携わっている。これまでお世話になった方々への感謝を込め、まだ駆け出しではあるが、薬剤師にとって本当に役立つ研修プログラムを考えていきたいと思っている。最後に、研究室でご指導いただいた斎藤先生をはじめ、関係各位のこれまでのご恩に心から感謝し、本稿を締めくくりたい。

生涯教育講座のご案内（令和３年度）

令和２年度については、開催を予定しておりました生涯教育講座は新型コロナウイルス感染症が拡大している状況を踏まえ、学内協議の結果、すべて中止といたしました。

令和３年度につきましては、WEB 上で Zoom にてライブ配信を行い、また状況により対面での講座を予定しております。日程、開催場所等につきましては、随時、更新してまいりますので、日本大学薬学部ホームページ　生涯教育（https://www.pha.nihon-u.ac.jp/longlife-learning/）にてご確認ください。なお Zoom での開催につきまして、受講料は申し込み時に前払い（カード決済）を予定しております。※カード決済は VISA、MasterCard、American Express、JCB、Diners Club が利用可能予定です。

1　最近のトピック

Zoom にてライブ配信を予定する。

単位数：1 単位（90 分× 1 コマ）

時　間：19 時 30 分～ 21 時 00 分

年 3 回を予定。

2　ファーマシューティカルケアの最前線

Zoom にてライブ配信を予定する。

単位数：2 単位（90 分× 2 コマ）

時　間：13：00 ～ 14：30、14：40 ～ 16：10

年 3 回を予定。

3　薬剤師実践セミナー

対面での実施が可能であれば実施を検討。服薬支援をテーマに、実習形式で開催、場所は薬学部校舎もしくは桜門会館を予定。

単位数：3 単位

時　間：10：00 ～ 17：00

11 月に開催を予定。

問い合わせ先：日本大学薬学部薬剤師教育センター

https://www.pha.nihon-u.ac.jp/longlife-learning/

TEL：047-465-3895

FAX：047-465-2384

日本大学薬学生涯教育講座
QR コード

研 究 室 だ よ り

薬理学研究室（3 号館 1 階 312）

校友会会員の皆様におかれましては益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

薬理学研究室では、2019 年 3 月に伊藤芳久教授が定年退職された後、4 月に宮岸寛子氏（52 期）を助教として迎え、現在、小菅康弘准教授、石毛久美子の 3 名で教育・研究にあたっております。新型コロナウイルス感染症の影響により、大学でも様々な制約のある生活となり、卒業研究生との親睦会（コンパ）も全く実施できないまま 1 年以上が過ぎました。昨年 3 月には南郷拓嗣君が学位論文（Prostaglandin E2 による運動ニューロン分化誘導に関する神経薬理学的研究）を提出し、博士（薬学）の学位を授与され、学部卒業生とともに、社会人としての第一歩を踏み出しました。写真は昨年の卒業式での 1 枚です。今年も既に薬剤師国家試験が終わり、6 年生は間もなく社会に巣立ちます。諸先輩方におかれましては新社会人への暖かいお声掛けをどうぞよろしくお願い申し上げます。また、薬理学研究室では 4 月より小菅准教授が教授に、宮岸助教が専任講師に昇格することが決定しており、さらなる活躍が期待されます。

末筆ながら、校友会会員の皆様のご健康とご活躍を心よりお祈り申し上げます。

追伸：薬理学研究室同窓生の皆様にこの場をお借りして連絡がございます。2021 年は、隔年で開催している研究室同窓会の開催年ですが、現在の新型コロナウイルス感染症の状況を鑑み、井熊一宏会長（26 期）と相談の上、開催を見送ることにいたしました。2 年後の開催案内を楽しみにお待ちくださるようお願いいたします。

（石毛　記）

環境衛生学研究室　（3 号館 2 階 325）

会報 73 号でお伝えしましたように、山中 健三教授が 2020 年 7 月 28 日に亡くなられました。新型コロナの蔓延や故人の気持ちを反映して家族葬を行うとのことで、研究室から同窓生の皆さんへのご連絡を慎みました。ここにお詫び申し上げます。

歳月人を待たず。山中先生の逝去に伴う人事が 3 月に発令され、2021 年度 4 月から戸塚 ゆ加里先生が着任することになりました。戸塚先生は、日大理工学部薬学科衛生化学教室のご出身で国立がんセンター研究所においてユニット長を歴任された発がん研究のスペシャリストです。当研究室はヒ素による発がん研究を中心とした活性酸素種によるストレス応答に関する研究を行っています。先生が当研究室に加わることで研究の幅がより一層広がることを確信しています。また、中国蘇州大学医学部の安 艶教授との二国間交流事業共同研究を 2018 年から実施していますが、昨年度は新型コロナの影響で全く交流することができませんでした。一方、コロナ対策で苦心している中、下田 康代助教は得意のパソコンを駆使して遠隔で卒研生の論文作成や発表のアシストを積極的に行っていました。

ここに登場する先生方は皆さん女性です。研究室補助の松島さんも女性です。東京オリンピックに関連し女性蔑視発言をされた方がいましたが時代は違います。スタッフの更なる活躍が期待されます。卒研生の諸君も遠隔中心の講義に戸惑いながらも頑張っています。

末筆ではございますが、皆様方の益々のご発展とご多幸を祈念いたします。

（加藤　記）

生物有機化学研究室（3 号館 3 階 335）

新緑の候、皆様におかれましてはご健勝のこととお喜び申し上げます。

生物有機化学研究室の近況を報告させていただきます。昨年度からの新型コロナウイルスによる生活様式の変化の大きさに学内も翻弄された一年でした。これまでと同じやり方による教育・研究は叶いませんが、この変化を前向きに捉えてより良い方法を模索しながら、学生のことを第一に考えて活動を進めて参ります。

生体機能化学研究室と有機化学研究室が統合し、生物有機化学研究室となり 2 年余りが経過しました。これからの研究の道標となる研究室名の下、飯島　洋教授、内山武人教授、髙宮知子専任講師、齋藤弘明専任講師の教員 4 名と大学院生 1 名、6 年生 15 名、5 年生 12 名の学生が研究に邁進しています。3 月には社会人大学院生として所属していた篠原秀幸君に、触媒反応の開発研究に対して博士号が授与されました。彼は、山形県衛生研究所に勤務しながら週末などを使い精力的に実験を進め、真摯に研究に取り組んでおりました。また、所属学生は自主性をもって卒業研究を進めており、日に日に頼もしさを増しています。研究に取り組むマインドを将来に役立ててくれることでしょう。新型コロナウイルスが落ち着きましたらイベントを再開して親睦を深めていければと思っております。

末筆ながら、卒業生の皆様におかれましては引き続きご指導・ご支援を賜れれば幸いです。会員皆様のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

（齋藤　記）

薬品分析学研究室（3 号館 3 階 331）

同窓会の皆様如何お過ごしでしょうか？当研究室でも長期にわたり卒研生が登校できない状態が続き、私（四宮）はもとより張替、在間の両先生も閑散とした中での研究を余儀なくされました。昨年度の 6 年生は慣れないリモートでの学修に苦労したのか 13 名のうち 9 名は卒業を迎えましたが、4 名は捲土重来を期す結果となりました。また、遡る昨年 5 月には卒研生達が浅草への研究室遠足を計画していましたが実施できず、社会に巣立つ前の記念となるべき時間が失われました。「教育とは先生と同じ場所にいて同じ空気を吸うことだ」と教えられて育った私にはどこまで実践できたかと思うと本当に残念です。第 41 回薬品分析学研究室同窓会も中止のやむなきに至りましたが、職場等で新卒の後輩に会う機会がありましたら、何卒ご懇篤なるご指導と励ましを頂戴できたらと存じます。なお、有難いことに昨年度配属された現 5 年生 12 名は全員が共用試験に合格し、少しずつですが、研究室にも新たな環境が生まれつつあります。ただ、写真は一昨年の研究室遠足でムーミンバレーパーク（埼玉県飯能市）に行ったときのもので、その後は皆で撮ることも出来ていないのが実情です。以前のような状態に戻るまで時間がかかると思いますが、学生達にとっては二度とない研究室での生活が充実したものとなるよう力を尽くしていきますので、何卒ご支援のほどお願い致します。研究室同窓会での再会を楽しみにしています。

（四宮　記）

張替先生撮影

医療薬学研究室（6 号館 4 階 649）

桜薬会会員の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。医療薬学研究室の近況についてお知らせ致します。当研究室は、岸川幸生教授、野伏の 2 名で教育・研究に取り組んでおります。令和 3 年度は、大学院生が 1 名、卒業研究生 16 名（6 年生：8 名、5 年生：8 名）が在籍し、6 月には 4 年生 8 名が加わる予定になっております。

6 年生は新型コロナウイルスの影響により思うような研究活動が出来ていませんでしたが、6 月末に行われる卒業研究発表会に向け、研究に励んでおります。また、このような状況の中で全員が無事に就職活動を終えることができました。これもひとえに会員皆様の仁慈であり、心より御礼申し上げます。5 年生全員が薬学共用試験（OSCE・CBT）を無事に合格し、現在は 2 名の学生が薬局実習に取り組んでおります。実習生として病院・薬局へと伺った際には、引き続きご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。大学に残った学生は、6 年生のアドバイスをもらいながら卒業研究に励んでおります。研究室旅行や飲み会などの研究室のイベントは出来ませんが、限られた時間の中 ZOOM などを活用して先輩後輩間で交流を深めております。

3 月 25 日には、研究室に在籍していた 7 名全員が卒業し、調剤薬局・ドラッグストアに 6 名、公務員に 1 名が就職しました。それぞれの新天地での活躍を心から願っております。

最後になりましたが、会員皆様のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

（野伏　記）

地区支部・職域支部だより

第 44 回桜神会

緊急事態宣言が発令され不要不急の外出・移動自粛が要請された中、令和 3 年 1 月 12 日（火）、恒例の第 44 回桜神会がオンラインで開催されました。今回は初めての試みでしたが、新たに 1 名の先生を加えた総勢 19 名の先生方にお集まりいただきました。

大学からは林宏行先生（薬物治療学研究室）、荒川基記先生（医薬品評価科学研究室）にご出席賜ることができました。難波昭雄先生（横浜薬科大学 薬剤学研究室）の司会で、参加していただいた全ての先生方よりご近況も伺うことができました。また、閉会の挨拶では藤本康嗣先生（横浜新緑総合病院）より力強いお言葉をいただき、次回桜神会での再開を誓っております。

桜神会の開催に先立ちまして、学術講演会も行っております。本会の会長であります赤瀬朋秀先生（日本経済大学 経営学部・大学院 教授）より「地域包括ケアシステムにおける生活習慣病対策の意義～特に高コレステロール血症について～」という内容のご講演をいただき、医療経営学の観点からコロナ禍における薬剤師の方向性を分かり易く解説いただきました。1 日当たりの医療費が高額である脳血管障害、虚血性心疾患、人工透析への進行を抑えるためには、高血圧症、脂質異常症、糖尿病などの生活習慣病の継続的な治療が大切です。地域包括ケアシステムの中で病院と調剤薬局が連携し、オンラインも活用した対策は重要な意義があります。現場の薬剤師はコロナ禍であっても逆境に負けず、地域医療の発展に貢献し続けるためにも、本会のネットワークを是非ご活用ください。

新型コロナウイルス感染症は薬剤師の業界を大きく変えてしまいましたが、本会では今後も様々な形での交流を検討しております。神奈川県在勤、在住の先生方には今後も積極的なご参加をお願いいたしまして、第 44 回桜神会のご報告とさせていただきます。

（岡添　進　記）

桜神会に関するお問合せは

桜神会　会長　赤瀬　朋秀（日本経済大学　経営学部・大学院　教授　t-akase@tk.jue.ac.jp）まで

日本大学ニュース

役教職員年頭会同が開催

恒例の年頭会同が令和３年１月12日（火）11時から市ヶ谷の日本大学会館２階の大講堂で開催された。コロナ禍であり、参加者を限定し、間隔を空けで設置された椅子の指定位置に着席後、時間を短縮して行われた。田中英壽理事長はご挨拶の中で、新型コロナウイルス感染症に対応されている医師、看護師、教職員の方々に敬意と感謝の意が述べられた。このような困難な状況が続く中では、より盤石な経営基盤の確立が必要であり、併せて一人一人が大学全体を考えて行動していくための教職員の意識改革が重要であると訴えた。

引き続き、加藤直人学長はご挨拶の中で、各学部で取り組んできた教育の質の保証について全学的な体制の確立が教学の課題であると述べられた。コロナ禍収束後の状況を視座に入れ平常授業の実施、研究活動の正常化のみならず、オンライン教育手法の有効展開ができるよう施策を進めてゆきたいとの方針が述べられた。

薬学部校友会（桜薬会）ホームページの ID

日本大学薬学部校友会ホームページの「校友会会則」・「求人・求職のコーナー」・「運営委員会資料」を見るのには ID とパスワードが必要です。

ID は宛名の下にある正会員番号の下６桁（半角）、パスワードは氏名（全角カタカナ）になります。ID・パスワードは毎年 10 月の末に一括更新しております。毎年３月に卒業された方は、10 月までは学生時の ID・正会員の ID どちらでも見られますが、それ以降は正会員の ID をお使いください。氏名の変更をお届けいただいた方は、10 月までは旧氏名となります。

薬学部校友会（桜薬会）ホームページでの求人情報募集

会員からの求人情報の掲載は無料です。求人申込書はホームページの「求人・求職」のページからダウンロードし、必要事項をご記入の上、事務局に郵送（あるいはＦＡＸ）してください。なお、「求人・求職」のページを閲覧（ログイン）するには、会員番号ＩＤが必要です。会員番号ＩＤは封筒宛名下にある会員番号の下６桁です。

ホームページアドレス；http://alumni.pha.nihon-u.ac.jp

メールアドレス；pha.alumni@nihon-u.ac.jp

日本大学薬学部校友会（桜薬会）奨学金制度について

日本大学薬学部校友会（桜薬会）奨学金制度は平成 22 年度通常総会で設立が承認されて、専用口座を開設し、校友会会員の方々からの募金及び薬学部校友会桜薬会会報広告掲載料を奨学金の原資としています。平成 23 年度から給付を開始しています。

薬学部校友会（桜薬会）奨学金制度にご理解をいただきご協力いただきますようお願い申し上げます。

募金は下記口座にお願いいたします。
口　座：００１２０－５－３１８７３４
口座名：日本大学薬学部校友会奨学金

薬 学 部 ニ ュ ー ス

学園祭（桜薬祭）

第 32 回桜薬祭は令和２年 10 月 31 日（土）、11 月１日（日）に開催予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となりました。

学術講演会

第 31 回薬学部学術講演会を令和２年 10 月 31 日（土）に開催しました。今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため Zoom による開催となり、本学部の教員及び大学院生等 16 名が学術、技術及び教育の振興を図るため講演を行いました。

共用試験

ＯＳＣＥは令和２年 12 月６日（日）、ＣＢＴは令和３年１月９日（土）・10 日（日）に実施しました。この２つの試験は、薬学生に必要な知識、技能及び態度を総合的に評価するものであり、この試験に合格しなければ、その後に実施される薬学実務実習に参加することができなくなります。学生たちは日頃、対策講座やプレ実務実習Ⅰ・Ⅱ等で培った成果を発揮して合格できるよう、緊張の中、試験に臨んでいました。

薬学部入学者選抜

一般選抜（Ｎ全学統一方式）は令和３年２月１日（月）に実施し、志願者は 250 名でした。また、一般選抜（Ａ個別方式）は令和３年２月５日（金）に実施し、志願者数は 737 名でした。

生涯教育講座

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止となりました。

教員の人事

１　役職発令（2021.4.1）

①　学部長発令　　鳥　山　正　晴　教授（薬品分子化学）

②　学部次長発令　　林　　宏　行　教授（薬物治療学）

③　担当発令

（１）学務担当　　松　本　宜　明　教授（臨床薬物動態学）

（２）学生担当　　田　口　博　之　教授（薬品物理化学）

（３）企画・広報担当　　鈴　木　豊　史　教授（薬剤学）

（４）研究担当　　内　山　武　人　教授（生物有機化学）

（５）就職指導担当　　大　場　延　浩　教授（病院薬学）

④　図書館分館長　　木　澤　靖　夫　教授（機能形態学）

２　教授発令（2021.4.1）

①　新任

（1）戸　塚　ゆ加里（環境衛生学）
（2）加　納　久　雄（臨床医学）
②　昇格
（1）小　菅　康　弘（薬理学）
（2）廣　瀬　　大（病原微生物学）
（3）三　浦　基　文（薬品分子化学）

3　准教授発令（2021.4.1）
①　昇格
（1）進　藤　大　典（健康・スポーツ科学）

4　専任講師発令（2021.4.1）
①昇格
（1）宮　岸　寛　子（薬理学）
②職種変更
（1）坂　神　　宏（薬剤師教育センター）＜医学部附属板橋病院より＞

5　助教発令（2021.4.1）
①　再任
（1）木　村　元　気（機能形態学）
（2）在　間　一　将（薬品分析学）
（3）鈴　木　直　人（薬剤学）
（4）矢　作　忠　弘（生薬学）
（5）田　中　　融（生化学）
（6）花　岡　峻　輔（薬物治療学）

6　助手発令（2021.4.1）
①　再任
（1）元　吉　尚　美（薬学教育研究センター）

7　異動（2021.4.1）
①　専任講師
（1）中　村　公　薫（薬剤師教育センター）＜医学部附属板橋病院へ＞

8　退職（2021.3.31）
①　定年
（1）金　子　利　雄　教授（英語１）
（2）村　山　琮　明　教授（病原微生物学）
（3）本　橋　重　康　教授（薬品分子化学）
②　依願
（1）小　野　真　一　教授（臨床医学）

令和４年度　日本大学薬学部入学者選抜期日及び科目等

	一般選抜Ａ個別方式　第１期	一般選抜Ｎ全学統一方式　第１期	一般選抜Ｃ共通テスト利用方式
１ 募集人員	100 名	12 名	10 名
２ 出願資格	日本大学一般選抜要項に同じ		
３ 出願書類	①　出願確認票 ②　出願資格を証明する書類		
４ 選考方法	学科試験（マークシート方式） ①　数学：「数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学Ａ・数学Ｂ（確率分布と統計的な推測を除く）」60 分【配点 100 点】 ②　理科：「化学基礎・化学」60 分【配点 100 点】 ③　外国語：「コミュニケーション英語Ⅰ・コミュニケーション英語Ⅱ・英語表現Ⅰ・英語表現Ⅱ」60 分【配点 100 点】 ※上記の得点を標準化得点に換算し、合否判定する。	学科試験（マークシート方式） ①　数学①：「数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学Ａ・数学Ｂ（確率分布と統計的な推測を除く）」60 分【配点 100 点】 ②　理科：「化学基礎・化学」、「生物基礎・生物」のうちから１科目選択　60 分【配点 100 点】 ③　外国語：「コミュニケーション英語Ⅰ・コミュニケーション英語Ⅱ・コミュニケーション英語Ⅲ・英語表現Ⅰ・英語表現Ⅱ」60 分【配点 100 点】 ※上記の得点を標準化得点に換算し、合否判定する。	学科試験 ①　数学：『「数学Ⅰ・数学Ａ」、「数学Ⅱ・数学Ｂ」』【配点 200 点】 ②　理科：「化学」【配点 200 点】 ③　外国語：「英語（リーディング）」、「英語（リスニング）」【配点 200 点】 ※理科において２科目受験した場合は、第１解答科目が「化学」の場合のみ合否判定に使用する。 ※理科については、大学入学共通テストの配点を上記の配点に換算し、合否判定する。 ※「英語（リスニング）」の成績を利用する。
５ 出願期日	令和４年１月５日（水）～28 日（金）	令和４年１月５日（水）～21 日（金）	令和４年１月５日（水）～15 日（土）
	出願書類の提出方法は郵送（簡易書留）とし、出願締切日必着です。		
６ 選考日	令和４年２月５日（土）	令和４年２月１日（火）	令和４年１月 15 日（土）・16 日（日）
７ 合格発表日時	令和４年２月 10 日（木）　10 時		
８ 入学手続締切日	令和４年２月 17 日（木）（二段階：３月 11 日（金））		
９ 入学検定料	35,000 円	18,000 円	18,000 円
10 試験会場	船橋（日本大学薬学部校舎）、東京（日本大学法学部校舎）	日本大学一般選抜 Ｎ全学統一方式試験場	大学入学共通テスト試験場
11 出願方法・書類送付先	インターネット出願 日本大学入試センター Tel 03-5275-8300		

※１　学校推薦型選抜（指定校制）（募集人員 10 名）は、11 月 20 日（土）実施。
　２　学校推薦型選抜 付属学校等（基礎学力選抜）（募集人員 85 名）は、11 月 20 日（土）実施。
　３　学校推薦型選抜 付属学校等（国公立併願方式）（募集人員２名）は、11 月 20 日（土）実施。
　４　詳細については、日本大学薬学部ホームページ及び募集要項にて確認してください。

	校友子女選抜	学校推薦型選抜（公募制）
1 募集人員	5名 （合格基準に達しない場合には， 合格者数が募集人員に満たないこともある）	20名
2 出願資格	次の①及び②の要件を満たす者。 ① 大学入学資格を有し，本学部への入学を第一希望とする者で，次のいずれかに該当する校友の子女（法定血族を含む2親等内直系血族）である者 ただし，法定血族の場合は，大学入学年度の3年前の4月1日以前に養子縁組をしていること ② 合格した場合，本学部に入学することを確約できる者	本学部での学業を強く希望し，合格した場合，本学部に入学することを確約できる者で次のいずれかに該当し，出身学校長が推薦するもの ① 高等学校もしくは中等教育学校を令和4年3月卒業見込みで，第3学年第1学期（又は前期）までの全体の学習成績の状況が3.5以上の者 ② 高等学校もしくは中等教育学校を令和3年3月に卒業し，卒業時の全体の学習成績の状況が3.5以上の者
3 出願書類	① 校友子女確認書 ② 入学志願票 ③ 出身学校調査書等	① 学校長推薦書 ② 自己推薦書 ③ 出願確認票 ④ 出身学校調査書
4 選考方法	① 書類選考 ② 面接 【配点30点】 ③ 基礎学力検査（マークシート方式） (1)「化学基礎・化学（高分子化合物の性質と利用を除く）」45分【配点200点】 (2)「コミュニケーション英語Ⅰ・コミュニケーション英語Ⅱ・英語表現Ⅰ・英語表現Ⅱ」 45分【配点100点】 ①②③を総合的に合否判定する。 ①③において専門分野の学修に必要な基礎学力を評価し，②において主に「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を評価する。	① 書類選考 ② 面接 【配点30点】 ③ 基礎学力検査（マークシート方式） (1)「化学基礎・化学（高分子化合物の性質と利用を除く）」45分【配点200点】 (2)「コミュニケーション英語Ⅰ・コミュニケーション英語Ⅱ・英語表現Ⅰ・英語表現Ⅱ」 45分 【配点100点】 ①②③を総合的に合否判定する。 ①③において専門分野の学修に必要な基礎学力及び自ら学ぶ学習意欲や知的好奇心を評価し，②において主に「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を評価する。
5 出願期日	11月1日（月）～4日（木）	11月1日（月）～4日（木）
6 選考日	11月20日（土）	11月20日（土）
7 合格発表日時	12月1日（水） 10時	12月1日（水）10時
8 入学手続締切日	12月8日（水）	12月8日（水）
9 入学検定料	35,000円	35,000円
10 試験会場	日本大学薬学部校舎	
11 出願方法・書類送付先	郵送による出願 日本大学薬学部 TEL 047-465-8480（直通）	インターネット出願 日本大学薬学部 TEL 047-465-8480（直通）

会　合　予　告

薬学部校友会幹事会開催のお知らせ

幹事会を下記日時により開催いたします。
幹事の皆様にはご多用中とは存じますが、万障お繰り合わせのうえご出席下さいますようお願いいたします。

日　時：令和３年６月27日（日）午後１時
場　所：日本大学薬学部　８号館　822教室
千葉県船橋市習志野台７－７－１
東葉高速線　船橋日大前駅下車　徒歩７分
問い合わせ先　TEL　047-465-1478（薬学部校友会事務局）

会　務　報　告

令和２年度薬学部校友会奨学生

薬学部教授会で審議の結果、薬学部校友会奨学生選考委員会により奨学生候補者として推薦された、入澤直樹（３年）さん、鈴木佑典（３年）さんの２名が承認され、奨学金を授与した。

令和２年度薬学部校友会（桜薬会）奨学生

応募者14名について、薬学部校友会（桜薬会）奨学生選考委員会で審議した結果、増田圭佑（６年）さん、片野田里乃（５年）さん、鳴澤優衣（５年）さん、松尾恵梨香（５年）さん、石井育美（４年）さん、小嶋海斗（４年）さん、小森谷宙大（４年）さん、田中みなみ（３年）さん、山老直哉（３年）さん、松田憂（２年）さん、の10名に決定し、奨学金を授与した。

会 費 納 入 報 告

財務委員会

会費を納入いただきました方の名簿です。ご協力ありがとうございました。誤りがありましたらお知らせください。

本部準会員（学生会員）会費納入者は人数のみのご報告とさせていただきます。

（令和２年11月１日～令和３年１月31日）

会費納入者

2,000 円納入者

61 景山洋子 62 河村知洋，中島貞夫 63 池内玲子，桒島國利，鈴木郁子 65 小林寿江 72 髙本和雄 77 安部貞詔 78 佐藤英隆，武内ひとみ 85 栗城華枝 89 内田真由美 90 山内牧子 08 下側由季

以上 15 名

4,000 円納入者

66 松田光弘

以上 1 名

10,000 円納入者

57 松岡茂樹 59 小倉嘉五郎，山内盛 60 安田凞枝 61 前田頼子，山崎恵美子 62 久田三郎 66 金子節子 67 松波紀子 69 牛込陛阜 70 有田三津代 71 二階堂和子 73 竹内一雅，安田勝紀 74 石川久美子 75 成田雅洋 78 曽根義継 79 椿恒雄 81 黒川眞哉 82 飯田恵子，長谷川孝明 83 石井一弘，長井知子 84 加藤泉 86 西垣聡 87 堀切明子 88 阿部振一郎 94 松野綾子 96 加茂恵代 05 池野徹 07 秋田綾子，（匿名　1）

以上 32 名

20,000 円納入者

62 昆由紀子 77 矢口澄江 80 須永毅 88 内山武人

以上 4 名

令和２年度本部準会員会費納入者（薬学部校友会へ会費還付があった者）

学部	２年	５名	大学院	２年	１名
学部	３年	４名			
学部	４年	２名			
学部	５年	６名			
学部	６年	２名			

以上 20 名

日本大学薬学部校友会（桜薬会）奨学金寄付者

64 渡邊和子 69 内倉和雄 76 本橋重康 80 遠藤尚登 01 齋藤弘明

合計 280,000 円

会費納入のお願い

校友会活動は会費により運営しています。会費納入にご協力をよろしくお願いいたします。

宛名に会費納入状況が印刷されています（会員番号に☆印のある方は未納です）。未納の方は、同封の振込用紙で会費納入をお願いいたします。

会費は年額 2,000 円です。事務簡素化のため 5 年分 10,000 円または 10 年分 20,000 円を一括納入していただければ幸甚です。

物故者名簿：心よりご冥福をお祈り申し上げます。（2021.01.31 現在）

正会員

2 期	藤井	篤範	（2021.01.16）
3 期	尾嶋（加来）	睦生	（2020.12.24）
3 期	佐田（宮川）	幸子	（2020.　　）
4 期	有本	亨	（2020.12.20）
4 期	高梨（大島）	久美子	（2020.08.07）
4 期	藤井	忠男	（2020.09.　）
4 期	山下（藤澤）	妙子	（2020.11.15）
10 期	坂田	達哉	（2020.05.11）
10 期	野本	亨資	（2020.09.08）
10 期	浜野（田中）	慧子	（2020.01.01）
11 期	荒井（宮本）	二郎	（2019.06.08）
11 期	城所	晋平	（2019.07.09）
16 期	水野	清史	（2019.　　）
19 期	土屋	洋一	（2020.09.19）
21 期	田口	浩之	（2010.12.　）
39 期	廣川	友美	（2000.　　）
41 期	佐藤	東史	（2020.05.02）
54 期	浦野	高弘	（2020.11.20）

校友会事務局に、死亡日時、葬儀日時、会場、喪主をご連絡いただければ、会より弔電を打たせていただきます。

令和３年度
通常総会のお知らせ

日本大学薬学部校友会（通称　日本大学桜薬会）会則第１１条に従い令和３年度通常総会を下記要領により開催いたします。

この総会は日本大学校友会の一翼を担う学部校友会として重要な行事です。ご多用中とは存じますが、万障御繰り合わせのうえ、ご出席下さるようお願いいたします。

定年退職されました金子利雄先生、村山琮明先生、本橋重康先生に記念品を贈呈し、長年のご指導に対し、感謝の気持ちを表したいと考えております。

記

総　会

日　時　**令和３年６月２７日（日）午後３時**

場　所　**日本大学薬学部　８号館　８２２教室**
千葉県船橋市習志野台７－７－１
東葉高速線　船橋日大前駅下車　徒歩７分

議　題　第１号議案　令和２年度庶務報告・事業報告
決算報告及び監査報告
第２号議案　令和３年度事業計画・予算案
第３号議案　日本大学薬学部校友会会則改正案
第４号議案　役員承認

懇親会　**開催いたしません**

準備の都合がありますので**６月１０日**までに同封ハガキあるいは
メール（校友会メールアドレス E-mail：pha.alumni@nihon-u.ac.jp）でご返信ください。
ハガキで出席のご返信をされる場合、連絡先（電話番号または E-mail アドレス）を必ずご記入いただきますようお願いいたします。

◎**対面開催が困難である場合**には、オンライン形式（Zoom）で開催する予定です。
オンライン形式で参加を希望する方は必ずメール（E-mail：pha.alumni@nihon-u.ac.jp）で返信して下さい。

発行日　令和３年５月 15 日
編集人　日本大学薬学部校友会事業委員会
発行人　日本大学薬学部校友会　内倉和雄
印刷所　協友印刷株式会社
TEL　03-5948-7150

発行所　千葉県船橋市習志野台　7-7-1
日本大学薬学部内（〒 274-8555）
TEL/FAX　047-465-1478（直通）
E-mail：pha.alumni@nihon-u.ac.jp
振替口座番号　00140-0-53798
振替口座名　日本大学薬学部校友会